

平成29年度

第19回大分県教育委員会 議事録

日 時 平成30年1月9日(火)
開会13時35分 閉会14時10分

場 所 教育委員室

平成 2 9 年度
第 1 9 回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 報 告

- ①プログラミング教育の取組状況について
- ②大分県内小学校の「外国語活動」先進校の取組について

(2) 協 議

- ①平成 3 0 年度海事職（司厨員）・実習助手（特別選考）選考試験について

(3) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委員	林 浩 昭
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	松 田 順 子
	委員	首 藤 照 美
	委員	高 橋 幹 雄

欠席委員なし

事務局	理事兼教育次長	宮 迫 敏 郎
	教育次長	岩 武 茂 代
	教育次長	木 津 博 文
	参事監兼教育財務課長	森 崎 純 次
	参事監兼学校安全・安心支援課長	宗 岡 功
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	参事監兼文化課長	佐 藤 晃 洋
	教育改革・企画課長	能 見 駿一郎
	教育人事課長	法華津 敏 郎
	福利課長	中 村 均 子
	義務教育課長	米 持 武 彦
	高校教育課長	姫 野 秀 樹
	社会教育課長	阿 南 典 久
	人権・同和教育課長	樋 口 哲 司
	体育保健課長	井 上 倫 明
	屋内スポーツ施設建設推進室長	山 上 啓 輔
	教育改革・企画課主幹（総括）	下 鶴 直 哉
教育改革・企画課主査	三 浦 晃 史	

2 傍聴人

2 名

開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

ただいまから平成29年度 第19回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名委員でございますが、高橋委員にお願いしたいと思っております。

会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。

会議の終了は14時25分を予定しています。

よろしく申し上げます。

議 事

(工藤教育長)

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議を公開しないことについてお諮りします。

協議の①は人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

それでは、協議の①については非公開といたします。

本日の議事進行は、はじめに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしくお願いいたします。

【報 告】

①プログラミング教育の取組状況について

(工藤教育長)

それでは、報告第1号「プログラミング教育の取組状況について」森崎参事監兼教育財務課長から説明いたします。

(森崎参事監兼教育財務課長)

報告第1号「プログラミング教育の取組状況について」ご報告いたします。先行実施する小学校を例にご説明します。

まず、「1.」のプログラミング教育の目的ですが、コンピュータ等を活用しながら、問題の解決には必要な手順があることを学ぶとともに、プログラミング的思考、即ち自分の意図を実現するための手順を論理的に考える力を身につけることなどにあります。

「2.」のとおり次期学習指導要領では小学校は平成32年度より全面実施となっていますし、中学校は平成33年度、高校は平成34年度からとなっています。

「3.」四角囲み中のイにありますように、プログラミング教育は学習指導要領総則の中で、「児童がプログラミングを体験しながら、論理的思考力を身につけるための学習活動」と書かれています。その際に情報技術を効果的に活用することや多様な他者と協働することがポイントとして示されています。特に小学校では、各教科の特質に応じて計画的に実施することや、教科のねらいを達成することが必要とされています。

2ページをお開きください。

「4.」の指導内容としては、小学校でプログラミングの体験的な学習の機会を確保することになっており、中学校では技術科で、高校では情報の中で履修していきます。

「5.」の今後のスケジュールですが、文部科学省では今年度中に「小学校プログラミング教育指針」を出す予定になっており、この指針を元

に教科書等が作られる予定になっています。

次に、県教育委員会の取組についてです。県教育委員会では、教員の研修を実施しており、各校の教頭を対象とした情報化推進リーダー研修、学校長対象のCIO研修及び出前研修等の研修では、たくさんの教員が受講しております。

一方で、児童生徒を対象に依存症や健康被害を含んだ情報モラル研修も実施しています。

3ページをお開きください。教員の研修の様子を掲載しています。まずは、プログラミング教育の経験のない教員に知ってもらい、先生方のハードルを下げ、新しい取組への不安をなくすために、「プログラミング教育体験研修」を実施しています。①は体を使ってプログラミングの仕組みを理解する体験、②はタブレットを使ったプログラミングの体験、③は実際にロボットを動かすプログラミングを行う内容です。教員自身が自ら理解を深め、主体的に取り組める研修内容にしています。

4ページをお開きください。今年度実施された県内の授業の様子です。この先は、お手元のタブレットを見ながらお聞きください。①は6年生の総合的な学習の時間で、ロボットを動かしながら時間内に何点取れるかを考えるものです。子どもたちは回を重ねる度に、思考を深め、コミュニケーションの大切さを学ぶとともに、判断力や決定力などを身に付けていきました。②は4年生の算数で、地図上の道に沿ってロボットを動かしながら分度器で角度を計測し、いかにしたら最短コースを走れるか計算して、ロボットをプログラミングしていきます。③は宮沢賢治の短編童話「やまなし」の場面を色や動きに着目しプログラミングで表現するものです。児童は文章記述をもとにロボットを使い、動きや光でその情景を表現することにより、文章理解をさらに深めることに繋がります。

今後もこのような教員研修を引き続き実施しながら、プログラミング教育を導入するための授業実践を進めていきます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(高橋委員)

説明のあったプログラミング教育についてですが、最終的にどのような目標を持って進めようとしているのですか。ICTのスキルやプログラマー養成という部分もあるような気がしますがいかがでしょうか。

(森崎参事監兼教育財務課長)

そのような部分もありますが、文部科学省はプログラミング教育を通

じて論理的な思考力を育むことを目標としています。

(高橋委員)

良い部分も、悪い部分もあると思いますので、しっかりとした目標を持って取り組んでください。

(首藤委員)

大分県内のタブレット等の整備状況はどのような状況ですか。

(森崎参事監兼教育財務課長)

パソコンの整備台数は、4.9人に1台の割合で整備されています。全国平均が5.9人ですので、それより良い状態です。

(林職務代理者)

小学校からプログラミング教育が始まるようですが、プログラミング言語についての学習などはどのようになっていますか。

(森崎参事監兼教育財務課長)

今回始まる小学校段階において言語の習得はありません。中学校の技術ではアルゴリズムなどの理解、高校の情報科ではJavaやC言語などの学習が入っています。ビジュアルベーシックなども学習するようです。

②大分県内小学校の「外国語活動」先進校の取組について

(工藤教育長)

次に、報告第2号「大分県内小学校の「外国語活動」先進校の取組について」米持義務教育課長から説明いたします。

(米持義務教育課長)

報告第2号「大分県内小学校の「外国語活動」先進校の取組」として、平成29・30年度間、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業で、小学校外国語活動の研究実践を行っている佐伯市立明治小学校の取組について報告いたします。1ページをご覧ください。

「1」移行期の参考となる研究と実践についてです。

本校は、現行の学習指導要領の中での研究という縛りの中で、それらを反映させつつ、移行期間のカリキュラムを作成しています。この取組は、全国に先駆けた取組と評されています。

11月20日に行われた公開研究発表会には、文部科学省の直山調査官の指導のもと、他県からも含め130名を超える方が参加しました。この研究発表会には首藤教育委員にもおいでいただいたところです。

次に、「2」の他校でも使える研究内容です。

ご紹介したい本校の研究の柱は、以下の2つです。1つは、総合的な学習の時間と関連付けたカリキュラムの作成、もう一つは、教師が意欲的に取り組む英語力向上研修の工夫と実施です。

1つ目の総合的な学習の時間と関連付けたカリキュラムの作成は国からの資料に基づき標準的なカリキュラムを作成することを基本とすることで、他校でも活用しやすいものとなっています。また、身近な地域の課題を見つけて、詳細に探究する総合的な学習の時間で学んだことを取り入れるため、児童が伝えたい内容が豊富になり、自らコミュニケーションしたくなる題材設定となっています。

2つ目の教師が意欲的に取り組む英語力向上研修の実施では、教師が授業で使う英語表現などを整理し、実践的な研修を行うなど、年配の教師も意欲的に取り組む英語力向上研修を研究し、指導力の向上を図っています。

「3 全面実施を見据えたモデルカリキュラム」についてです。

来年度から移行期間として、小学校3、4年で15時間、5、6年で50時間の外国語活動を行うこととなります。その年間指導計画案（略案）は文部科学省が作成し、既に公開されています。

一方、県内にも30、31年度に5、6年で全面実施と同じ70時間を行う予定の学校もあり、そのような学校は、現行の教材（Hi, friends!）と文部科学省作成の新教材（We Can!）の両方を用いた指導計画を作成しなければなりません。

そのモデルカリキュラムを明治小学校が作成し、去る11月20日に開催された研究発表会で第6学年分を参加者に示しました。ホームページ上にも公開され、12月12日の校長対象の研修会でも紹介されました。

さらに、12月に札幌で行われた全国小学校英語活動実践研究大会では文部科学省の調査官が明治小学校版をモデルカリキュラムとして推奨されたとお聞きしています。その後、この明治小学校が作成したモデルカリキュラムには、全国から「参考にさせてほしい」と問い合わせが絶えないということです。

最後に、「4 成果と課題」です。

来る2月6日に国立教育政策研究所が開催いたします研究指定研究協議会で、明治小学校は3～6年の全モデルカリキュラムを公表する予定です。

来年度から全国の範となる実践が行われ、県内のみならず全国の小学校に有益な研究成果が普及できるものと期待しており、本課としても、小学校における外国語の校内研修のあり方を含めて情報収集し、連携を深めたいと考えています。

なお、参考資料を2つ付けています。

1つ目は「アルファベットの大文字・小文字を識別できるようにする」ことを目指し、教科化に向けた学習活動を設定した学習指導案です。2つ目は総合で調べた自分たちのふるさと弥生の魅力について、APUの学生に英語で説明することを目指した学習指導案です。報告は以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(林職務代理者)

この研究指定は佐伯市立明治小学校が積極的に申し込んだのでしょうか。

(米持義務教育課長)

佐伯市は国立教育政策研究所の研究指定に関して積極的に取り組む素地がありました。また、かねてから校長の外国語教育の実践に定評があったこと、文部科学省の調査官がこの取組に着目したことが要因です。いわば両者の思いが一致した経緯がございます。

(林職務代理者)

小規模校であっても、国の先駆けとなるような取組ができるということは素晴らしいことだと思います。校長先生が熱心であったことや佐伯市にそのような素地があったということですが、その動機となったものはどのようなことなのでしょう。ぜひ、他の地域にもこのような積極的な姿勢を広げていってほしいと思います。

(松田委員)

先ほどもiPadを使った報告がありましたが、学習が身近な生活に繋がるようにしないといけないと思います。ICTを活用しながらどのように世界と繋がるかということを考えることが肝要だと思います。

(首藤委員)

私は授業を見させていただきました。文部科学省の直山調査官がお見えになって、丁寧にご指導をいただきました。明治小学校の実践は肩肘張ったところがなく、普段の取組に少し工夫を加えれば、どこでもできますよという提案であったと感じました。この地域だけに留めず、広めていくことが大事だと思います。

何か特別なことをやろうとすると、加配が必要だ、教材の準備はしてくるのかと言った声も聞かれます。県教育委員会が何かしてくれるのを待っているような感じがうかがえます。そうではなくて、待たなし

の状況というのを義務教育課からしっかり現場に伝えていくことが大事だと思います。

(米持義務教育課長)

佐伯市では以前から中学校の外国語の先生を小学校に派遣したり、ALTを4名配置する等、外国語教育に熱心に取り組んでおりました。しかし、この研究指定を始めてから総合的な学習の時間、他教科の学習内容を取り入れるなどカリキュラム・マネジメントの視点で実践を行い、しかも他の学校でも取り組めるような内容で提案をしていただいているので、ぜひ広がるようにしなければならないと思います。

また、12月12日の全小学校長を集めた研修会の中では、明治小学校の校長に説明をしていただき、非常に充実した内容となりました。今後も連携を続けていきたいと思っています。

(高橋委員)

お願いになるかもしれませんが、先ほどご紹介いただいた「We Can」の教材をコピーでも良いので、我々にも見せていただきたいです。

(米持義務教育課長)

後日準備いたします。

(松田委員)

東京オリンピックの開催に向けて、スマートフォンに日本語を入れると5ヶ国語で表示されるソフトが開発されています。英語を話す時のイントネーションや音声などが大切になってきます。これからは、記憶するとか文字を書くという時代から活用する時代になってくるとと思います。そのようなことも踏まえて、英語を使って会話が上手くいくようにしていくことが大切です。

それから、APUの学生を学校に招くというのは、とても良いことだと思います。東京オリンピック2020を見越して、このような授業をやっていくことも大事だと思います。

(工藤教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開でその他、何かございませんか。

では、非公開の議事を行いますので、関係課長のみ在室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

(関係課以外及び傍聴人退出)

【協 議】

①平成30年度海事職（司厨員）・実習助手（特別選考）選考試験について

（工藤教育長）

次に、協議の①「平成30年度海事職（司厨員）・実習助手（特別選考）選考試験について」法華津教育人事課長から説明いたします。

（説 明）

（工藤教育長）

ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

（質疑・意見等）

（工藤教育長）

他にご意見はありますか。

それでは、今回の協議結果を踏まえて、進めていきたいと思えます。

（工藤教育長）

それでは、最後にその他、何かございますか。

それでは、これで平成29年度第19回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。